



「 2019年 3月期 第1四半期 」 補足説明資料です。

どうぞご覧ください。

## 2019年3月期 第1四半期 決算概要

アドソル日進の取組み

2019年3月期 重点施策と業績見通し

新・中期経営計画 Vision2021

2

ご覧の項目について、ご説明 いたします。

まずは、  
「2019年 3月期 第1四半期 決算概要」から、  
ご説明 いたします。

- ◆売上高 : 8期連続 最高売上 更新
- ◆営業利益 : 最高益 更新 (2.4億円)
- ◆受注残高 : 過去最高 (23億円)

**最高  
売上・利益  
更新!**

**売上高** 28億50百万円 (前期比 + **4.9%**)

**営業利益** 2億40百万円 (前期比 **+31.9%**)

■業績予想に対する進捗率

売上高 : 第2四半期 50.6% / 通期 24.8%

営業利益 : 第2四半期 57.0% / 通期 27.2%

2019年3月期 第1四半期業績の総括です。  
売上高は、前期比「 4.9% 」増の28億50百万円、  
営業利益は、前期比「 31.9% 」増の2億40百万円となり、  
8期連続で、最高売上高を更新すると共に、  
最高益を更新しました。

業績予想に対する 進捗ですが、  
ご覧の通り、堅調に推移しております。

ICT需要は底堅く、  
通期の業績見通しは、計画通りの、  
売上高115億円、  
営業利益8億80百万円を  
見込んでおります。

◆ **8期連続 最高売上更新！ ・ 最高益更新！**

	2018/3期1Q		2019/3期1Q		前年同期比		
	実績	構成比%	実績	構成比%	増減額	変動P	増減率%
(単位：百万円)							
売上高	2,718	-	<b>2,850</b>	-	131	-	4.9
売上総利益	636	23.4	<b>686</b>	<b>24.1</b>	49	0.7	7.8
販売管理費	454	16.7	<b>446</b>	<b>15.7</b>	△8	△1.0	△1.8
営業利益	181	6.7	<b>240</b>	<b>8.4</b>	58	1.7	31.9
経常利益	186	6.9	<b>231</b>	<b>8.1</b>	44	1.2	24.0
四半期純利益	125	4.6	<b>160</b>	<b>5.6</b>	34	1.0	27.3
E P S (円)	13.8	-	<b>17.8</b>	-	3.9	-	28.6

4

第1四半期の 損益状況です。

社会インフラ事業における、エネルギー分野、  
先進インダストリー事業における、  
制御システム分野やソリューション分野が、  
堅調に推移したことから、

売上高は「4.9%増」の、「28億50百万円」と、  
8期連続での 増収 となりました。

営業利益は、「31.9%増」の、「2億40百万円」となり、  
最高益を、更新しました。

- ◆ 社会インフラ事業 : エネルギー（電力・ガス）拡大
- ◆ 先進インダストリー事業 : 次世代自動車（先進EV、自動運転）拡大
- ◆ IoX総合エンジニアリング事業 : IoT、セキュリティ堅調

	2018/3期1Q		2019/3期1Q		前年同期比		
	実績	構成比%	実績	構成比%	増減額	変動P	増減率%
(単位: 百万円)							
売上高	2,718	-	2,850	-	131	-	4.9
社会インフラ事業	1,822	67.0	1,728	60.6	△93	△6.4	△5.2
エネルギー	1,119	41.2	1,314	46.1	195	4.9	17.4
交通・運輸	397	14.6	221	7.8	△176	△6.9	△44.4
公共	83	3.1	23	0.8	△60	△2.3	△72.1
通信・ネットワーク	220	8.1	168	5.9	△51	△2.2	△23.5
先進インダストリー事業	896	33.0	1,122	39.4	225	6.4	25.2
制御システム	342	12.6	475	16.7	133	4.1	39.0
基盤システム	446	16.4	476	16.7	29	0.3	6.7
ソリューション	107	4.0	170	6.0	62	2.0	57.9
(内、IoX総合エンジニアリング事業)	863	31.8	959	33.6	95	1.9	11.1

セグメント別の「売上高」について、ご説明いたします。

- ・「社会インフラ事業」は、電力・ガスの、エネルギー分野が、堅調に推移しましたが、前期あった、旅行関連の、大型案件の終了と、先進インダストリー事業へのシフトにより、17億28百万円となりました。
- ・「先進インダストリー事業」は、先進EVや、自動運転などをテーマにした、次世代自動車関連の、制御システム分野や、決済基盤YAHOOが拡大したことにより、25.2%増の、11億22百万円となりました。
- ・当社は、社会インフラ、先進インダストリーが融合・連携し、全IoT領域を手掛けております。両事業の中で、IoT関連システムを抽出した「IoX総合エンジニアリング事業」では、次世代自動車関連(つながる車等)や、IoT・プラットフォーム関連、GIS(地理情報システム)、コンサルティング・サービスや、セキュリティ・ソリューション: LynxSECUREの採用継続などにより、11.1%増の、9億59百万円となりました。

受注状況

- エネルギー ● 電力関連のベースロード化（自由化、分社化）
- 交通・運輸 ● ガス関連拡大（自由化、設備関連、サービスシステム他）
- 公共 ● 宇宙・航空は、計画通り推移
- 通信・ネットワーク ● 防災関連は、次案件の端境期
- 次世代通信（5G）が、計画通り推移



続いて、セグメント別の詳細をご説明します。  
社会システム事業では、

- ・「 エネルギー分野 」は、自由化、分社化や、新サービスの創出等、旺盛な需要を取込みました。
- ・「 交通・運輸分野 」は、宇宙関連が、計画通りに推移しました。
- ・「 公共分野 」は、前期あった防災関連案件が終了したことにより、減少しました。
- ・「 通信・ネットワーク分野 」では、次世代通信:5G等が計画通り推移しました。

結果、売上高は、「 5.2% 減 」の、「 17億28百万円 」となりました。  
受注残高はエネルギー分野が大きく伸ばし、「 19.2% 増 」の、「 11億68百万円 」となりました。

受注状況

- 制御システム
  - 次世代自動車（先進EV、自動運転等）関連への対応に注力
  - メディカル関連が堅調に推移
  - IoT関連（基盤関連）が拡大
- 基盤システム
  - 決済基盤システム（新規）拡大
- ソリューション
  - セキュリティ・コンサルティング関連が拡大
  - LynxSECURE 採用継続（IoTシステム関連、公共ネットワーク）
  - 地理情報（GIS）が堅調



続いて、先進インダストリー事業の 受注状況です

- ・「 制御システム分野 」では、  
先進EVや 自動運転 等の 次世代自動車 関連が拡大し、  
メディカル関連、IoT基盤関連等が 堅調に 推移しました。
- ・「 基盤システム分野 」では、  
前事業年度に新たに参画した決済基盤システム関連が拡大しました。
- ・ソリューション分野では、  
コンサルティング・サービスが堅調に推移し、  
LynxSECUREの提供も、進みました。

以上の結果、  
売上高は、

「 25.2% 増 」の 「 11億22百万円 」、

受注残高は、

「 52.8% 増 」の、 「 12億13百万円 」となりました。

## 受注状況

- IoTプラットフォーム関連 (AI活用!)  
先進的なIoTデバイス制御関連 (次世代自動車等) 堅調に推移
- セキュリティ・ソリューションが堅調に推移

成長  
ドライバー!



8

続いて、IoX総合エンジニアリング事業の 受注状況です

- ・「IoT関連」では、  
次世代自動車関連(つながる車等)や、  
IoT・プラットフォーム関連、  
GIS(地理情報システム)、  
EMS(エネルギー・マネジメント・システム)等が拡大しました。
- ・「セキュリティ関連」では、  
コンサルティング・サービスが堅調に推移し、  
また、セキュリティ・ソリューション:LynxSECUREが、  
前期あった公共ネットワーク系に続き、採用されました。

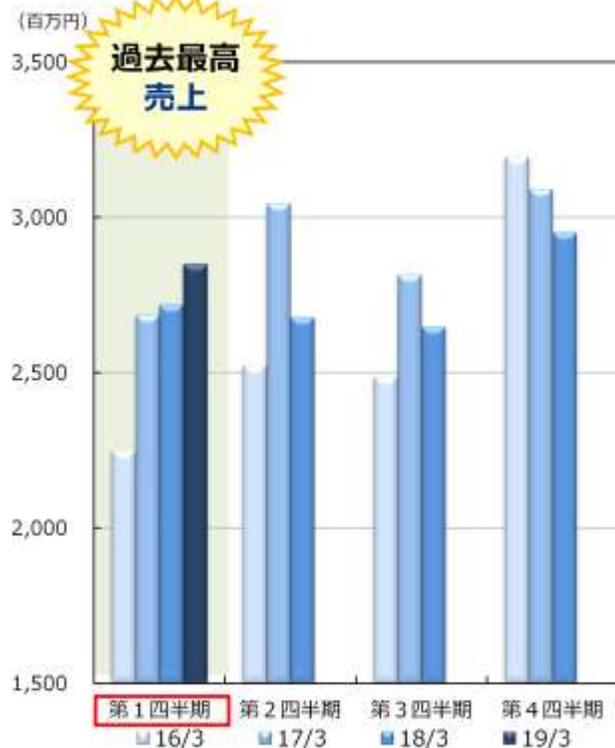
以上の結果、  
売上高は、

「11.1%増」の「9億59百万円」となりました。

引き続き、IoTへの取り組みを推進し、  
政府が掲げる「Society5.0」の実現に、貢献して参る所存です。

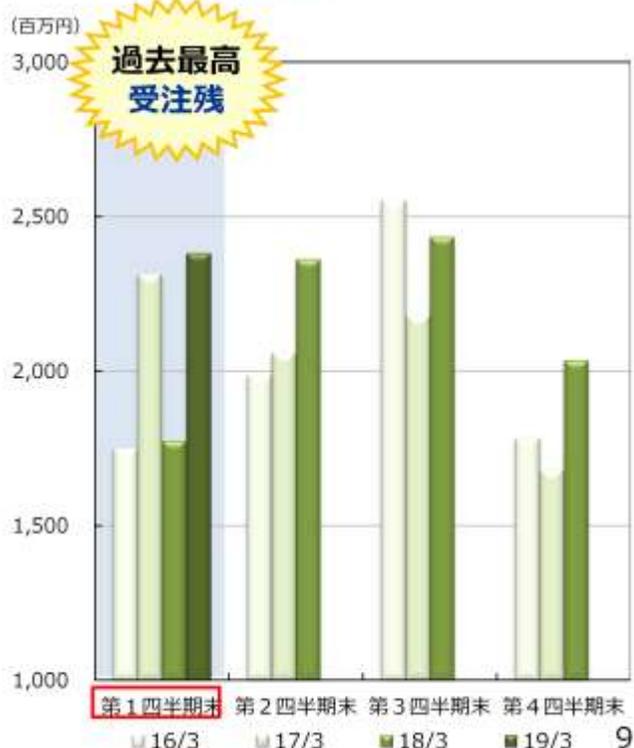
## 売上高

●エネルギー分野 拡大



## 受注残高

●受注残高 **23億円** 超過



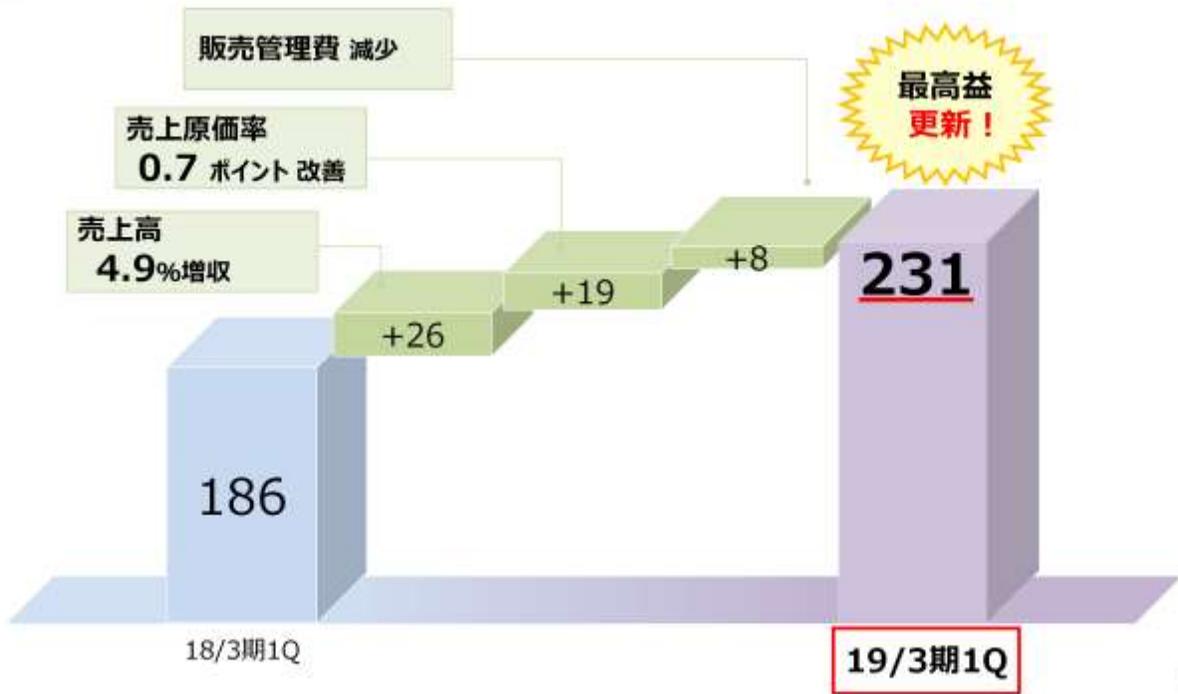
四半期毎の「売上高」と「受注残高」は、  
ご覧の通りです。

受注残高は、「23億82百万円」と、  
過去最高の、受注残高となりました。

主な変動要因

(単位：百万円)

■ 増益要因  
■ 減益要因



10

続いて、経常利益の分析です。

増収効果や、原価率の改善、  
販売管理費の減少等 により、

「 2億31百万円 」と、「 過去最高 」を更新しました。

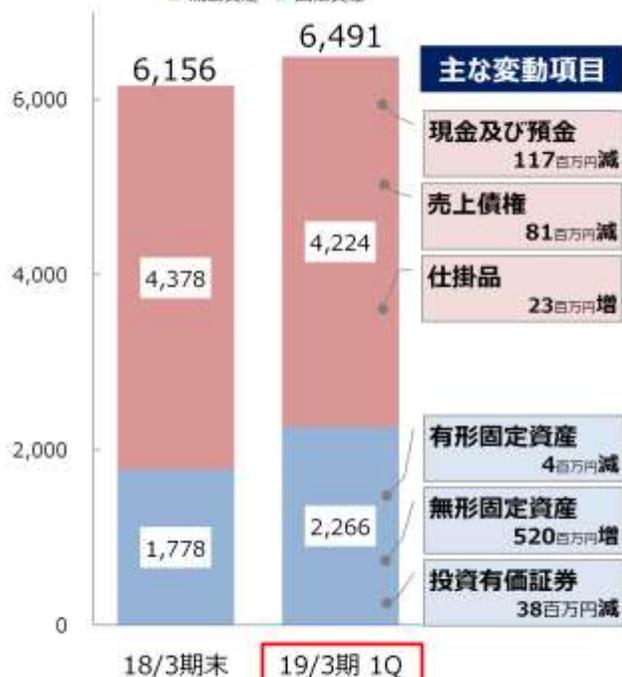
# 貸借対照表(前期末比較)

## 資産

●総資産：**64億円**

(単位：百万円)

■流動資産 ■固定資産



## 負債・純資産

●自己資本比率：**52.8%**

(単位：百万円)

■流動負債 ■固定負債 ■純資産



貸借対照表は、ご覧の通りです。  
 総資産は64億円と、  
 前期末と比較し、3億34百万円、増加しております。

自己資本比率は、「52.8%」と、  
 健全な財務内容となっております。

2019年3月期 第1四半期 決算概要

## アドソル日進の取組み

2019年3月期 重点施策と業績見通し

新・中期経営計画 Vision2021

12

次に、  
第1四半期を中心に、  
当社の取組みをご紹介します。

## 事業領域の拡大

- ◆社会インフラの更新需要 : 堅調な需要の取込み 継続
- ◆ベースロードの骨太化 : エネルギー (電力・ガス)、次世代自動車 (先進EV・自動運転) 他

## 新たな価値の創造・提供に挑戦

- ◆Lynx社と「包括契約」締結 ( 全IoTソリューション )
  - ・「セキュリティ・ソリューション: LynxSECURE」
  - ・「組込み機器向け リアルタイムOS : LynxOS」など
- ◆「IoT時代のセキュリティ・フォーラム2018」開催準備 ( 4年連続 ・ 2018/10/12 (金) )
- ◆アライアンス戦略
  - ・ニューテック社 (セキュリティ・サーバ) 、 情報システム監査社 (情報セキュリティ領域) 、

## 競争優位の発揮

- ◆研究開発 : 「AI・IoTプラットフォーム」
- ◆グローバル開発 : 「ベトナム・拠点拡充 着手」
- ◆産学連携・共同研究 : 「組込みOS研究 スタート準備」  
継続: 「慶應義塾大学」「早稲田大学」「名古屋工業大学」

重点施策の 進捗状況を ご説明 いたします。

「事業領域の拡大」では、

- ・電力・ガス等の エネルギー関連を中心とした、社会インフラの更新需要をしっかりと取込み、
- ・次世代自動車( 先進EV 、 自動運転 ) 等を中心に、ベースロードの骨太化に、注力しました。

「新たな価値の創造・提供に挑戦」では、

- ・米 Lynx社と、セキュリティ・ソリューション「LynxSECURE」や、IoT機器向け組込みOS等、全IoTソリューションの、国内独占提供する包括契約を締結しました。
- ・また、4年連続となる「IoT時代のセキュリティフォーラム」の開催準備も進めております。
- ・ニューテック社や、情報システム監査社との提携戦略を進めました。

「競争優位の発揮」では、

- ・AIや、IoTをキーワードにした人材育成や、
- ・ベトナムでの開発体制強化 に向けた 準備、
- ・産学連携では、ご覧の各大学との共同研究を進めると共に、組込みOS関連での、共同研究の準備にあたりました。

◆包括契約締結

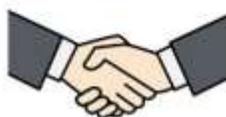
- ・米国 Lynx 社の「全製品」
- ・国内総代理店（独占販売）
- ・トータル・サポート
- ・ロングラン・サポート



**IoT機器を守る**

- IoT機器ソリューション  
OS選定、セキュリティ設計
- ワンストップ  
企画・設計・開発・販売・保守

(2018年4月18日リリース)



**アドソル日進**  
**国内総代理店**  
**独占販売**



- メーカー、ベンダー
- オフィス、工場、病院
- IoTセキュリティ

14

本年 4月に、IoT機器に 対する セキュリティの 重要性から、「IoT セキュリティ・サービス」を、更に 強化する為、米国Lynx社と、「セキュリティ・ソリューション :LynxSECURE」をはじめ、「産業機器」や「IoT機器 向け 組込みOS」を含む、「全ての IoTソリューション」を、当社が 日本国内で 独占提供する、包括契約を 締結 しました。

当社は、「安心・安全につなぐ」をキーワードに、新たな ソリューション の 創造・提供を 推進し、「オフィス」「工場」「病院」等を守る IoTセキュリティや、「産業機器」「医療・介護 機器」等のデバイス向け IoTセキュリティ、更に、「重要インフラ」をつなぐ「ネットワーク・セキュリティ」等、「IoT セキュリティ」の「企画」「設計」「開発」「販売」「保守」までをワンストップで ご提供して まいります

ニューテック社と、「セキュア・シリーズ」搭載 大容量PC開発・販売

「セキュリティ対策」「業務の効率化」を両立！

2018年5月 販売開始！

☆新コンセプト製品☆

ニューテック社が提供するパソコンに、  
「セキュア・シリーズ : セキュア・レスキュー」を搭載

- ・レガシーOSの継続利用
- ・システムの拡充
- ・ストレージの大容量化

レガシーOSを「隔離」  
サイバー攻撃を「遮断」



- ハードウェア仕様：  
CPU：Intel Core i3-6100 3.7GHz2C/4T  
メモリ：8GB  
OS用 SSD：64GB  
データ用 HDD：2TB～10TB (RAID1)  
外形寸法：W154 x D188 x H270
- ハードウェア保守：  
セントバック3年  
(オプションでオンサイト保守選択可能)
- セキュリティ対策：  
セキュア・レスキュー forレガシー

(2018年4月10日リリース)



- ◆株式会社ニューテック
- ・本社：東京都港区
- ・代表取締役社長：柳瀬博文
- ・東証ジャスダック

15

本年4月には、  
ストレージ 専門メーカーの、  
ニューテック社 と、

当社の セキュア シリーズ を搭載した  
大容量PC を 共同で開発し  
販売を 開始しました。

今後も、  
様々な 企業様と  
オープン イノベーション による  
新サービス ・ 製品の 開発に  
積極的に 取り組んで まいります。

IoT向け 近距離無線「LoRa」パケットキャプチャー **新発売**

「LoRaWAN対応」「全17ch 同時確認可能」

2018年4月 **販売開始!****国内初!**

☆新製品☆

IoT向け製品の、**開発企業様向け**製品開発では … **安価・容易**に、LoRa方式の認証・適合性を判断!設置・利用では … **無線の通信状況確認**や、**不具合特定**に利用!

(2018年4月5日リリース)



バケットキャプチャー

- ・USB dongle型のバケットキャプチャー
- ・LoRaのパケットをキャプチャー
- ・LoRa WANパケットにも対応
- ・取得したデータを、「Wireshark®」(ネットワーク・アナライザ・ソフトウェア)で表示
- ・1chから最大17chまでを同時にキャプチャリング可能 (上り×8ch, 下り×8ch, ビーコン×1ch)

バケットモニター (Wireshark® 画面)

16

また、  
IoTシステムに **必要不可欠な**  
**無線通信** に関して

製品開発 と、IoTシステムの導入を  
飛躍的に 効率化させる 製品を  
この4月に 発売しました。

当社の コアソリューションの 一つである  
「近距離 無線 通信」での  
サービス拡充にも  
引き続き 取り組んでまいります。

「フォーラム・セミナー・展示会」へ、積極的に参加

- ◆ RSA Conference 2018   
(2018/4/16~20 米国 サンフランシスコ)
- ◆ 第20回データストレージ EXPO  
(ニューテック社、2018/5/9~11 東京ビッグサイト)
- ◆ 第6回通販ソリューション展 春  
(ムラタシステム社、2018/5/9~11 東京ビッグサイト)
- ◆ 第13回 GISコミュニティフォーラム  
(2018/5/24~26 東京ミッドタウン)
- ◆ Interop Tokyo 2018  
(京セラコミュニケーションシステム社、2018/6/13~15 幕張メッセ)
- ◆ 地理情報システム学会（IoT×GIS分科会）  
(2018/6/29 当社 セミナールーム)



17

提案活動の 強化として、  
米国、サンフランシスコでの、  
世界最大のセキュリティ専門カンファレンスである、  
「RSAカンファレンス」のほか、

各種の フォーラム ・ セミナー ・ 展示会へ 参加し、

当社独自の  
スマート・ソリューションや  
セキュリティ・ソリューション の 訴求と、  
当社ブランドの 向上を  
図って おります。

「上流工程」「高付加価値」へのアライアンス・連携



18

アライアンス戦略 としては、  
 「コンサルティング」、「セキュリティ」、  
 「グローバル」、「IoT」  
 をキーワードに、  
 高度な 専門性を有する 企業との  
 アライアンス戦略を 積極的に 推進して おります。

また、大学との産学共同研究や  
 先進的な技術領域での、団体活動、  
 米国サンノゼR&Dセンターを通じて、  
 最先端の技術習得を推進しております。

「最先端R&D：米国」「グローバル開発：中国2拠点・ベトナム3拠点」



19

グローバル戦略では、

増加するICT需要にこたえるための、  
開発体制をアセアン(中国2拠点、ベトナム3拠点)で  
確立しています。

その体制を更に強化するため、  
ベトナムでの開発体制強化に向けた準備を行いました。

また、「IoT ・ セキュリティ 」に関しては、  
本社の セキュリティ・ラボと、  
子会社の「 サンノゼR&Dセンター 」を結び、  
米国Lynx社と 共に、  
国内メーカー様の、ジャパン品質の 要求に しっかりと応え、  
IoT セキュリティ ・ ビジネスの  
拡充を 図って まいります。

情報システム監査社「セキュリティ・コンサルティング分野」で協業



情報システム監査



アドソル日進

- ・「大企業・グループ会社（グローバル展開企業）」  
「官公庁」向け、サービス展開
- ・システム監査専門会社として創業（日本初）

・本社：大阪市淀川区  
・代表取締役社長：三谷 康之



(2018年7月；当社にて)



本年 7月には、  
「情報システム監査社」と、  
グローバル展開する大手企業・グループ会社様や、  
官公庁向けに  
セキュリティ・コンサルティング・サービスの提携と  
サービスメニューの開発で  
提携しました。

情報システム監査社と共同した、  
コンサルティングサービスの提供も、推進して参ります。

今後も、  
積極的に、提携・協業活動を推進して参ります。

## セキュリティの今！世界と日本のIoTセキュリティ最前線



## ■ キーノートスピーチ（欧・米）

欧米より、最新のIoT、セキュリティ動向のご紹介

## ■ 展示会

IoT・セキュリティを、デモンストレーションで！

## ■ 協賛各社

実例を交えた、国内の最新事例のご紹介

## ■ アドソル日進・米Lynx社

自動車、メディカル、生産工場等でのIoT・セキュリティの最新情報

21

本年 10月12日（金）に、  
東京、品川の グランドプリンスホテル高輪にて、  
4年連続となる「IoT時代のセキュリティ・フォーラム」を  
開催いたします。

おかげさまで、  
毎年、お客様には、大好評をいただいております。

本年も、400名のお客様をご招待し、  
欧米での最先端の IoT・セキュリティの取り組みを、  
ご紹介いたします。

また、協賛会社様からも、最新の  
IoTやセキュリティの取組みを、実例を交えて  
ご紹介いただきます。

詳細は、弊社ウェブサイトにて、随時掲載しています。

2019年3月期 第1四半期 決算概要

アドソル日進の取組み

2019年3月期 重点施策と業績見通し

新・中期経営計画 Vision2021

22

続きまして、  
今期 2019年3月期 の、  
「重点施策」と「業績見通し」について、  
ご説明いたします。

## 事業領域の拡大

## 社会インフラ事業

- 更新需要の取込み ⇒ 電力・ガス（事業再編・分社化、新規顧客獲得）
- 新領域の開拓・拡大 ⇒ 「宇宙システム」「5G（次世代通信）」「鉄道」

## 先進インダストリー事業

- ものづくりIoT化 ⇒ 「次世代EV自動車」「設備IoT」「医療・介護IoT」
- キャッシュレス ⇒ 「次世代決済・カード」

## 新たな価値の創造・提供に挑戦

## IoX総合エンジニアリング事業

- セキュリティ ⇒ セキュア・IoTプラットフォームの開発・提供  
（デバイス、ゲートウェイ、パッケージ）

## 競争優位の発揮

- グローバル開発体制の強化 ⇒ ベトナム地区
- 産学連携・共同研究 ⇒ セキュリティ・GISで新たな提携、研究

23

まず、「事業領域」の「拡大」ですが、「社会インフラ事業」では、「本格化」する「電力会社」の「分社化対応」で、「領域拡大」を図ると共に、「電力分野」での「新規顧客開拓」を進めて参ります。

「先進インダストリー事業」では、「次世代EV自動車」に搭載する「各種制御システム」の開発と「自動運転」の実現に向けた取り組みを「顧客」とともに、加速させて参ります。

「新たな価値の創造・提供に挑戦」では、「半導体メーカー」「ハード・ベンダー」「メーカー」との「アライアンス」を進め、「当社独自」の「セキュアIoTプラットフォーム」の進化と、「早期市場投入」を計画しております。

競争優位の発揮では、「ベトナム・ダナン地区」での、「開発体制」の「増強」に取り組むと共に「セキュリティ」と「GIS」、「組込みOS」等で、「大学」との「共同研究」の「深堀」を進めます。

◆ 9期連続の増益! ( 過去最高益更新!! )

	2018/3期		2019/3期		前年同期比		
	実績	構成比%	見通し	構成比%	増減額	変動P	増減率%
(単位:百万円)							
売上高	10,997	-	11,500	-	502	-	4.6
社会インフラ事業	6,858	62.4	7,050	61.3	192	△1.1	2.8
先進インダストリー事業	4,138	37.6	4,450	38.7	311	1.1	7.5
(内、IoX総合エンジニアリング事業)	3,592	32.6	3,950	34.3	358	1.7	10.0
売上総利益	2,516	22.9	2,650	23.0	133	0.1	5.3
営業利益	832	7.6	880	7.7	47	0.1	5.7
経常利益	857	7.8	890	7.7	32	△0.1	3.8
当期純利益	553	5.0	564	4.9	11	△0.1	1.9

24

2019年3月期の、通期業績見通しは、

売上高は 「 115億円 」、  
 営業利益は 「 8億 80百万円 」、  
 当期純利益は、「 5億 64百万円 」と、  
 「 最高益の更新 」を見込んでおります。

「 IoX 総合エンジニアリング事業 」を  
 成長ドライバーとして

引き続き、「 社会インフラ 関連 」の 需要を  
 しっかりと 取り込むと ともに

「 先進 インダストリー事業 」での、  
 ソリューション 提供を 伸ばし、  
 計画の達成に 取り組んで まいります。

◆ 先進インダストリー事業 好調！

(単位：百万円)	2018/3期 2Q		2019/3期 2Q		前年同期比		
	実績	構成比%	見通し	構成比%	増減額	変動P	増減率%
売上高	5,397	-	5,630	-	232	-	4.3
社会インフラ事業	3,502	64.9	3,510	62.3	8	△2.5	0.2
先進インダストリー事業	1,895	35.1	2,120	37.7	225	2.5	11.9
(内、IoX総合エンジニアリング事業)	1,742	32.3	1,800	32.0	58	△0.3	3.3
売上総利益	1,266	23.5	1,288	22.9	21	△0.6	1.7
営業利益	402	7.5	420	7.5	17	0.0	4.3
経常利益	418	7.8	424	7.5	6	△0.2	1.5
第2四半期純利益	283	5.3	288	5.1	5	△0.1	1.8

25

第2四半期の、「業績見通し」ですが、

「社会インフラ事業」は、「前期並み」を維持しつつ、

「先進インダストリー事業」は次世代自動車等を中心に、好調であることから、

売上高は、

前期比「4.3%増」の「56億円」、

営業利益は、

前期比「4.3%増」の「4億20百万円」と、

「増収・増益」を、見込んでおります。

## ◆ 配当方針

- 配当性向 **35%**以上 ( **2** ポイントUP)
- 配当計画 年 **2** 回 (中間、期末)

## ◆ 配当予想

(単位：円)	2017/3期	2018/3期	2019/3期
中間	9 (※1)	10	11
期末	11	11	11
年間	20	21	22

(※1) 17/3 中間配当には、東京証券取引所第1部上場記念配当2円を含む。  
2016/10/1付、株式分割1:2を実施。分割を考慮した配当金を表記。

26

配当性向は、「 35%以上 」、  
株主配当は、「 中間 ・ 期末の 年2回 」と  
しております。

今期は、  
「 上期、 11円 」、  
「 下期、 11円 」の 配当を 予定しております。

( 今期の 配当性向は、「 35.2% 」の 見込みです。 )

対象株主&時期

- 毎年9月30日、3月31日の株主様（年2回）
  - 200株以上4,000株未満 : 12月、6月に優待品を発送予定
  - 4,000株以上 : 11月、5月にカタログを発送予定

優待内容

■ 200株以上4,000株未満

「緑の募金」付きQ U Oカードを贈呈

- 200株以上 1,000株未満 500円相当
- 1,000株以上 2,000株未満 1,000円相当
- 2,000株以上 4,000株未満 1,500円相当

● 保有期間特典

1年以上で Q U Oカード1枚（500円相当）を  
年間 2枚 追加贈呈



■ 4,000株以上

- Q U Oカード(3,000円相当) 又は
- 「紀州梅ギフト」から  
選べる株主優待カタログ を贈呈



創業天保五年  
株式会社 東農園



注. 写真はイメージで実際の商品と異なる場合があります。

「株主還元」として  
「配当」に加え、

「保有株数」に応じた「優待制度」を設けており、  
「梅ギフト」や「クオカード」を

年2回、  
贈呈させていただきます。

2019年3月期 第1四半期 決算概要

アドソル日進の取組み

2019年3月期 重点施策と業績見通し

新・中期経営計画 **Vision2021**

28

続いて、本年2月に公表しました  
新・中期経営計画 Vision2021について  
ご説明 致します。



# 中期経営計画

## *Vision2021*



## 社会インフラ



## 次世代型

## Society 5.0



出典:「Society5.0」は内閣府HP

30

まず、「市場動向」及び「外部環境」の状況ですが、  
 「2020年」の「東京オリンピック・パラリンピック」を  
 一つの契機として、  
 ご覧の社会インフラは、  
 「次世代型」に向けて、現在、「移行・更新」が  
 始まって おります。

「政府」は、「Society 5.0」を掲げ、  
 その実現に向け、動き出して おります。

「Society 5.0」では、  
 「IoT」を更に進化させ、  
 「人」「モノ」「サービス」など  
 「あらゆるもの」がつながります。



31

当社は「IoTトップランナー」を目指して 事業活動を行って参りました。

モノがつながる「IoT」から、人・モノ・サービスまでがつながる時代が到来しています。

自動車や列車・船舶の自動運転、AIの活用、ロボット、ドローン、遠隔医療・見守り介護、キャッシュレスなどでIoTが進みます。

当社には、先進的なIoTテクノロジーと最先端のIoTサイバー・セキュリティ・ソリューションがあります。

また、社会インフラ分野や、製造業を中心とした産業分野での実績、大学との共同研究、米国・シリコンバレーでの研究開発、アジア・アセアンでのグローバル開発、アライアンス・提携、など、

競争優位の源泉が数多あります。

これらをフル活用し、「新たなソリューション」の創造が可能となります。

社会インフラや、産業分野での、IoTや、ICTニーズに対し、当社の事業活動が、

超スマート社会の実現に直結しているものと確信しております。

# IoXで未来をつなぐ ICTエンジニアリング企業

～ IoX リーディングカンパニー ～



32

「新・中期経営計画」の「メイン・コンセプト」は、「IoXで未来をつなぐICTエンジニアリング企業」です。

当社が培ってまいりました、「先進的なIoTテクノロジー」と、「革新的なサイバー・セキュリティ・ソリューション」を「コア」に、「IoT」の「リーディング・カンパニー」を目指して参りたいと思います。

2021年3月期の業績目標は、  
 売上高 「126億円、」  
 営業利益 「12億円」としました。  
 「最先端」の「研究開発」に  
 しっかりと「投資」を行いつつ、  
 「利益で成長する3か年」としたいと思います。

## 社会インフラ事業

### 領域拡大・拡充

「電力分社化（2020年）」  
 「次世代通信・5G 商用化（2020年）」  
 「ガス会社の分社化」「宇宙システム」「高度道路交通システム」

### 安定した収益確保

「エネルギー（電力・ガス）」「道路・鉄道」  
 「航空」「公共・防災」「通信ネットワーク」

## 先進インダストリー事業

### モノづくりのIoT化

「次世代EV自動車・自動運転」「IoT工場」  
 「産業機器」「設備機器」「医療・介護機器」「ドローン」

### アウトソーシング

「顧客製品を当社センターでフル・サポート」

### キャッシュレス

「次世代決済システム」

続いて、事業戦略です。

今期より、「社会システム事業」、「IoTシステム事業」を、「社会インフラ事業」と「先進インダストリー事業」に再編しました。

社会インフラ事業では、「電力・ガス」の「分社化」、「5G・次世代通信」で、事業領域の拡充を図るとともに「宇宙システム」、「高度道路交通システム」等の新領域で、「事業領域」の拡大を図ります。

先進インダストリー事業では、「先進EV自動車」や「自動運転」への取組みが加速しております。「最高レベルの技術提供」や「開発センターの増設」など、「顧客ニーズ」にしっかりと対応してまいります。また、「工場」や、「産業機器」、「設備機器」、「医療・介護機器」の「IoT化」や、「ドローン」は、「成長市場」であり、「サイバー・セキュリティ・ソリューション」の提供とともに、「ものづくりのIoT化」に取組んで参ります。



次に、成長戦略 を ご説明 いたします。

「IoT システム」では、  
「デバイス」や「近距離 無線」、  
「AI」、「ビッグデータ」など、  
様々な「先進 技術」が  
必要 になります。

さらに、増加する サイバー攻撃 に向けて、  
「セキュリティ 対策」が、  
重要に なって まいります。

当社は、  
「先進 技術」と  
「サイバー・セキュリティ」を 武器に、  
「IoX 総合 エンジニアリング 事業」を  
ワンストップで 提供し、  
「社会 インフラ」と  
「先進 インダストリー」の  
事業を 拡大させて まいります

## 提携戦略

アドソル・グループ ( 資本提携、M&A、業務提携 ) 

## グローバル戦略

アジア・アセアン での サポート体制拡充 

## 価値創造戦略

米サンノゼ R&D センター ( 先進テクノロジー )   
大学・研究機関 ( 共同研究・実証実験 )

## 技術戦略

IoX システム 技術 

## 資本政策

資本効率の向上 ( EPS、株式流動比率 ) 

## コーポレート戦略

働き方改革、人事制度改革、業務改革 

## ESGへの取組み

テーマ：エネルギー、水、食糧、防災 

その他の

重点戦略ですが、

M&Aや、AI、先進IoT技術、

更に、グローバル対応等、

様々な戦略にもしっかり取り組んでまいります。

また、当社は、環境にも配慮した事業運営を推進して参ります。

ESG、

水や、エネルギー、防災等に関連する

情報システムの、研究や、開発にも

積極的に取り組んで参ります。

環境にも優しいアドソル日進を、

目指して参ります。

## 2021年3月期

配当性向 : 35 %以上 ( + 2 ポイントUP !! )

配当金 : 28 円 ( + 7 円 )

E P S : 79 円 ( +17 円 )

2018/3期比



36

続いて、「利益還元方針」です。

ご覧の通り、

「2010年より」、

「連続増配」を「達成」して参りました。

「株主の皆さま」の「ご期待」に

お応えできるよう、

「今期より」、「配当性向」は、

「2ポイント・アップ」の「35%以上」とし、

「2021年3月期」まで、

「11期連続増配」を「達成」して参りたい  
と思います。

また、

「2021年3月期」の「配当」は、

「2010年」と比べて、「12倍」となる、

「一株 28円」を計画しております。

◆営業利益目標 **12億円 (44.2% アップ!)**

(単位: 百万円)	2019/3期			2021/3期		
	計画	比率%	成長率%	計画	比率%	成長率%
売上高	11,500	-	4.6	<b>12,600</b>	-	<b>14.6</b>
社会インフラ事業	7,050	61.3	2.8	7,350	58.3	7.2
先進インダストリー事業	4,450	38.7	7.5	5,250	41.7	26.9
(内、IoX総合エンジニアリング事業)	3,950	34.3	10.0	5,000	39.7	39.2
営業利益	880	7.7	5.7	<b>1,200</b>	<b>9.5</b>	<b>44.2</b>
経常利益	890	7.7	3.8	1,210	9.6	41.2
当期純利益	564	4.9	1.9	720	5.7	30.2
EPS (円)	62.4	-	1.8	79.7	-	29.7
ROE (円)	16.0	-	-	17.0	-	-
従業員数 (人)	533	-	7.0	600	-	20.4
配当金 (円)	22	-	4.8	28	-	33.3
配当性向 (%)	35.2	-	-	35.1	-	-

※成長率は、2018年3月期末比

37

最後に、経営指標は、ご覧通りです。

2021年 3月期の

「売上高」は、「14.6%増」の「126億円」、  
「営業利益」は、「44.2%増」の「12億円」と、

「IoX 総合 エンジニアリング 事業」を  
「成長ドライバー」に、  
「利益」での「成長」を目指してまいります。

以上が、新・中期経営計画の、ご説明となります。

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。又、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

又、業績等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保障するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

尚、本資料に記載されている会社名及び商品名は、各社の商標又は登録商標です。

■お問合せ先

 **アドソル日進株式会社**

URL <http://www.adniss.jp/>

【本 社】 〒108-0075 東京都港区港南4-1-8 リバージュ品川9階、10階

TEL : 03-5796-3131 (代表)

経営企画室 広報・IR担当 TEL : 03-5796-3261

メール : [ir@adniss.jp](mailto:ir@adniss.jp)

以上で、  
**「 2019年3月期 第1四半期 」**  
**決算の ご説明を 終わらせていただきます**

ありがとうございました。